

甲 第 号

久保 信代 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

| | | | |
|---------|----------|-----|-------|
| | 委員長 | 教授 | 野上 恵嗣 |
| 論文審査担当者 | 委員 | 教授 | 粕田 承吾 |
| | 委員(指導教員) | 准教授 | 牧之段 学 |

主論文

Effects of an attachment-based parent intervention on mothers of children with autism spectrum disorder: preliminary findings from a non-randomized controlled trial.

自閉スペクトラム症児の養育者に対するアタッチメント理論に基づいた親子関係支援：非ランダム化比較研究による予備的知見

Nobuyo Kubo, Megumi Kitagawa, Sayaka Iwamoto, Toshifumi Kishimoto

Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health 2021 Jul 18; 15(1):37.

論文審査の要旨

自閉スペクトラム症 (ASD) 児では養育者に対するアタッチメント形成は可能であるが、養育者が適切に対応することが難しい。「安心感の輪」子育てプログラム (Circle of Security Parenting : COSP) は養育者を対象とした子どものアタッチメント欲求への理解と応答性を高める心理教育プログラムである。本法は元来、定型発達児の養育者を対象としているが、本研究では ASD 児に転用した。4~12 歳の ASD 児養育者 60 名を、20 名を介入群、40 名を対照群に割り当て、COSP 介入前後の養育者の育児効力感と精神症状の変化や子どもの情緒や行動の変化を質問票を用いて評価した。育児効力感、養育者視点から評価した子どもの行動について介入群のみ改善が示された。養育者の精神症状は介入群に改善が示されたが、対照群は悪化した。これらの結果から、本法は ASD 児養育者の育児効力感と精神健康度を高め、子の行動改善の実感をもたらす効果があると示された。本論文は、ASD 児へのアタッチメント形成に焦点を当てた方法論の有効性を示した重要な研究であり、ASD 児のアタッチメント欲求に対する養育者の感性を高める支援の有効性を支持しており、今後の ASD への早期介入に貢献すると考えられる。

公聴会では、本法取り組みの推奨すべき開始年齢、母親の自己申告による心理的バイアスが結果に影響を与える可能性、社会的に実践可能なプログラムであるため地域保健活動のサポートとして地域に根ざす方法などの多くの質疑に対して、的確に回答された。

以上より、主論文の内容と公聴会での発表、および参考論文と合わせて、審査委員すべてが適と判断し、博士 (医学) の学位に値する研究であると考えられる。

参 考 論 文

1. アタッチメント（愛着）と自閉スペクトラム症
久保信代 教育と医学, 69(3), 14–21, 2021
2. アタッチメントに着目した自閉スペクトラム症児と養育者に対する親子
関係支援 —分離不安を呈していた8歳男児と母親の親子関係の変化—
久保信代・北川恵・岩本沙耶佳 日本サイコセラピー・薬物療法学会雜
誌, 20(1), 37–46, 2020
3. 自閉スペクトラム症児との関わり
久保信代 チャイルドヘルス, 22(3), 25–28, 2019

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに精神医学行動神経医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年12月14日

学位審査委員長

発達・成育医学

教授 野上 恵嗣

学位審査委員

法医学

教授 粕田 承吾

学位審査委員(指導教員)

精神医学行動神経医学

准教授 牧之段 学